



胸に刻もう  
『カスリン・アイオン台風 70 年』  
～風化させない歴史とつなげる未来～

## ～災害の記憶や教訓を風化させないために～

### カスリン台風による大泉堤防(登米市中田町)決壊から『70年』

#### 北上川・大泉堤防の決壊

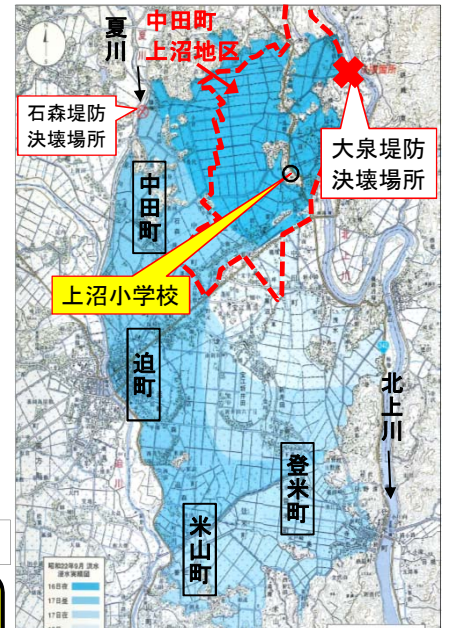
今から70年前の昭和22年(1947年)9月にカスリン台風の接近に伴う断続的な雨が5日間にもわたり降り続き、登米市中田町の大泉堤防が決壊し、北上川の濁流が中田町を駆け抜け、約15km下流の登米町や迫町、米山町までの一帯に広がり、死者15人、浸水家屋5,908戸、全半壊408棟、流失家屋271棟の大きな被害となりました。

また、迫川支川の夏川では石森堤防が決壊し、町は二手からの濁流に呑み込まれ、その後、減水に至るまでは一週間も要したと言われています。

この未曾有の災害から70年の節目に、一人一人が防災意識を高め、この歴史や教訓を風化させることなく、後世に伝えていきたいものです。



▲ 水が引くまで人々は屋根で生活し、水を避けた



昭和22年(1947年)9月  
カスリン台風による浸水範囲

北上川下流  
大規模災害時の  
被災対策協議会

#### 上沼小学校で、北上川の歴史や防災について 学習会を開催

米谷出張所では、9月15日に登米市立上沼小学校の4年生の児童(33人)を対象に、災害の記憶を風化させないよう、北上川の歴史や防災について、学習会を開催しました。北上川の歴史については、河川協力団体「とよま北上川かっぱの会」の舟嶋さんが講師となって、北上川の歴史や、源流から河口までの川の特徴、動植物などを学習しました。

また、防災については、70年前にこの地域で起こった災害を知って驚きながらも「もしも、同じような堤防決壊が今起きたらどうするか」や、事前に避難準備しておくことの大切さを学んでいただきました。



▲ 学習会の様子



氾濫シミュレーションによる  
浸水想定範囲(事務所ホームページより)

※上図(70年前の浸水範囲)と下図(現在の氾濫シミュレーション浸水想定範囲)の浸水範囲は概ね変わっておらず、過去の災害の教訓から学ぶことも大切だと実感しました。



▲約400年前に、北上川の流路変更時に築かれた「相模土手」や「お鶴明神」を9月20日に現地見学して学習しました。



▲カスリン台風の被害や防災について学習しました。



# カスリン台風で殉職した警察官の慰霊祭が行われました

カスリン台風で北上川の濁流にのまれ殉職した元佐沼警察署員、小松儀一警部補(当時23歳)の慰霊祭が9月14日、登米市中田町上沼の慰霊碑の前で執り行われました。小松警部補は当時、住民の避難誘導に前日から不眠不休で当たり、昭和22年9月16日午後9時10分ごろ、北上川大泉堤防の決壊に巻き込まれ濁流に流され、尊い命が犠牲になりました。

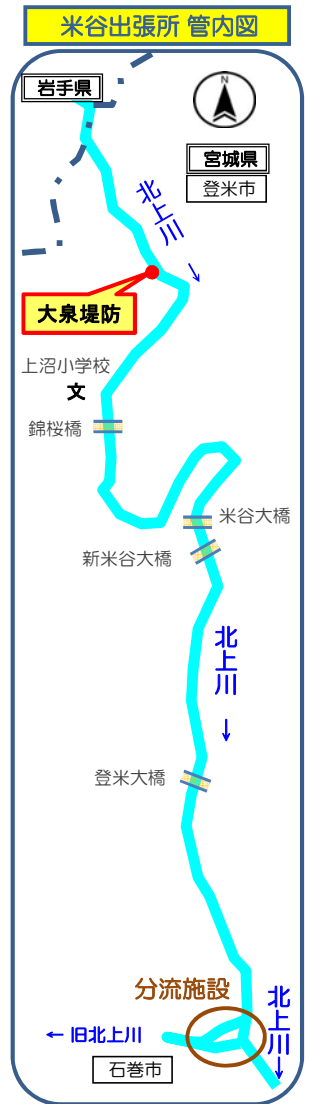
慰霊祭では、市、警友会、地元関係者並びに遺族の方々から約30人が出席して、小松警部補の冥福を祈りつつ、この悲劇が再び起こらないように誓いました。



▲ 小松警部補の生前の写真が佐沼署から遺族の方へ寄贈されました。



▲ 慰霊碑の前で、黙祷、慰霊のことは、参加者により献花が行われた。



## 「川をきれいに」～児童図画展示会～

この展示会は、河川愛護活動の一環として、沿川小学校の児童の皆さんに「川をきれいに」をテーマに募集して集まった975作品のうち、入選した89作品について、登米会場のイオンタウン佐沼店を皮切りに展示会が開催中です。



北上川水系 ポスター部門で金賞に選ばれた登米市立浅水小学校2年 小野寺 菜柚さんの作品



北上川水系 図画部門で金賞に選ばれた登米市立登米小学校2年 鈴木 ももかさんの作品

### 【展示会場】

- 10月11日～10月17日：登米会場(イオンタウン佐沼店)
- 10月18日～10月24日：河南会場(遊楽館)
- 10月26日～11月 1日：石巻会場(イオンモール石巻店)
- 11月 2日～11月10日：大崎会場(大崎市図書館)

国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所 米谷出張所

〒987-0902 宮城県登米市東和町米谷字古館5-4 TEL 0220(42)2211 FAX 0220(42)2249

北上川下流河川事務所ホームページ URL : <http://www.thr.mlit.go.jp/karyuu/index.html>

